

世界に「SABO」という言葉を広めた砂防の父 赤木正雄展示館

1、砂防の父 赤木正雄展示館
場所 〒668-0843 豊岡市引野972

【駐車場】



【正門】



【展示館入口】



【展示館内部】



2、赤木正雄氏略歴（1887年～1972年）

- ・豊岡中学校
- ・第一高等学校(東京大学の前身)
- ・内務省入り
滋賀県瀬田川支流、吉野川、淀川、立山山系、飛騨山系、六甲山系など、全国で砂防工事を指揮した。
- ・36歳の時、内務省を退職して自費でオーストリア・ウィーン農科大学に留学。
- ・2年間の留学後、帰国し内務省で近代砂防技術を習得したただ一人の技師として活躍。
1942年に55歳で退官するまで、全国各地の砂防工事の指導に当たった。
京都帝国大学や日本大学などで講義を行い、砂防理論を確立させた。
- ・退官後、貴族院議員、次いで参議院議員
- ・1951年国際水文学会会で、溪流等の浸食をコントロールすることを「SABO」とすることが認められた。
- ・豊岡名誉市民
- ・文化勲章(1971年)
- ・1972年 85歳でご逝去

3、徳島県吉野川での溪流砂防工事(内務省2番目の勤務地)

与えられた設計図書は、河川における堰堤工法をそのまま谷川の砂防に採用した不合理なものであった。主任技術者にその誤りを指摘し、変更を申し出たが聞き入れられず、設計図通りの工事施行をせざるをえませんでした。しかし、すぐ大正5年の出水でその堰堤は破壊された。その後も工事と堰堤破壊が繰り返された。赤木は、出水の跡を細かく調査し一人で模型実験を行うなどして、破壊された原因を推察し、堰堤の改良を考案した。しかし、解決しない疑問も抱えるようになった。

4、但馬の功績

円山川直轄工事・一級河川編入・山陰海岸国立公園編入をはじめ、但馬小中河川改修に果たした功績は大きいものがあ

【銅像:塩津水防倉庫北側】



・1965年4月15日 銅像除幕式
式辞 佐川豊岡市長
経過報告 富山市議会議員

- ・リュックサックに脚絆スタイルの銅像
- ・銅像台座には、赤木正雄氏の希望により自筆で「答先師」と刻まれている。
子弟が、我師の教訓を譲ってそれにお答えする道義心が大切。

【観覧申込み・お問い合わせ】

一般社団法人 砂防の父 赤木正雄展示館
電話番号/FAX 0796-34-6517
メール sabo-am-tenjikan@lilac.plala.mail.jp